



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第11号 平成29年1月12日発行



三和地域の人口・世帯数
男 1,697人
女 1,773人
合 計 3,470人
世帯数 1,699世帯
(平成28年12月末現在)

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

みわ子育て講演会 人は人に育てられて人になる

平成29年
2月18日(土)
午前10時～
三和荘ホール

「みわを子育てしやすいまちに」
—その思いから、三和地域協議会は
「みわこどもまつり」のように子育て
世代が楽しく過ごせるような地域づ
くりをめざしています。

今回は、「おはなしおばさん」と

して有名な藤田浩子さんをお招きして、講演会を開催します。

第1部・第2部に分けて、子育て世代の方向けと、子育て世代のサポートをされている方向けにお話ししていただきます。託児スペースも設けますので、お気軽にお越しください。

第1部 10:00～
子育て中の方へ

第2部 11:40～
子育てをサポートする方へ

託児あり
(事前申込み制・
第1部のみ)

講演者 藤田 浩子さん
(おはなしおばさん)



<講師紹介>
東京生まれ。福島県で幼少期を過ごし、昔話を聞いて育つ。

幼児教育にたずさわって50年以上。現在は全国各地でわらべうたや遊びを教えたり、昔ばなしや小道具を使った楽しいおはなし、子育て講演会を行っている。

『おはなしおばさんの小道具』『おはなしおばさんシリーズ』(一聲社)など著書も多数。

第一部の意見交換会は、和やかな雰囲気の中スター
トし、交流会で今後やりたいことや移住者ならではの
悩みなど、三和町に住むにあたつてそれとの思いを話していただ
きました。また、地域協議会に望むこととして、空き家バンク情報
の充実、農業等の技術指導など、移住者の方の目線で正直な意見を
出し合つていただきました。

第二部は、12月とは思えないあ
たかな青空の下で、当部会スタッ
フ特製の猪鍋とおでんを全員で味
わいながら、わきあいあいと樂し
い時間を過ごしました。

参加された移住者のみなさんか
らは、「とても有意義な時間が過
ぎました」「前回よりもざっくりば
らごせた」「今後もぜひ交流会を続
増した」「今後もぜひ交流会を続
くことができ、話の内容に深みが

十干十二支は、お隣中国の殷の時代がはじまりで、我が国でも古くから年数や時を表す手段として用いられてきました。四柱推命や様々な占いなどにも多用され、干支もその一つと私の勝手な推測です。

ところでその「干支」今年は酉年、昨年後半から今年の酉年はなんだか大変かな?!の予感があり、アメリカではトランプ氏の大統領就任、年の瀬ぎりぎりになって大きな鳥の墜落? (不時着とも言うようです) そうです! ミサゴ、別

足を確保するバスの問題、子供たちの将来を大きく左右する学校の足を確保するバスの問題、子供たちは句の世界で言う「コゾコトシ」を田舎の小さな祠で年を迎えるが如きです。

そこで、4月で3年目を迎える「三和地域協議会」は、地域の足を確保するバスの問題、子供たちは句の世界で言う「コゾコトシ」を田舎の小さな祠で年を迎えるが如きです。

私たち「三和地域協議会」は、ますますプラットホームとしての役割を果たし、あらゆる隙間に気付く、お役に立てる存在を目指します。

今年もよろしくお願ひいたしま



三和地域協議会
会長 大槻 昭則

新年のごあいさつ



ミサゴ
出典：日本の野鳥識別図鑑

名魚鷹です。もっと
と言うなら英名才
スプレイです。
我が首相は、ブー
チン・オバマと名
だたる一国の主と

会見し、協調・融
和と、話こそ平和ですが、韓国の混亂、中国の霸権、フィリピンの暴言：わが日本は不死鳥のように蘇ることが可能なのでしょうか？

東京都知事は本当の改革が出来るのでしょうか？ いずれにしても凡人には予測をはるかに超えた新年

小中一貫校になることが確定した学校についても、少子化が解消するわけではなく、全ての住民が子たちの住みやすい町として、移住者の皆さんに大きく門戸を開き新しい風を起こさなければなりません。

私たち「三和地域協議会」は、ますますプラットホームとしての役割を果たし、あらゆる隙間に気付く、お役に立てる存在を目指します。

2回移住者交流会

が開催されました。

ターン者、三和町

で移住を考える方など、地元住民の方を交えておられました。

28名での交

流会となりました。

おでんと猪鍋

問題、みわこどもまつり、移住者交流会、三和ふれあいフェスティバルの運営、など等を関係者の皆様とともに、2年目の事業として取り組みましたが、まだまだ地域のかは疑問の残るところです。

特にバスの問題は、変革する「学校」の問題とも大きく関わりますし、近頃問題になる高齢者の運転事故、これに関する運転免許の返還とも連動する課題です。

第2回 移住者交流会 開催



事務局長
岡部 成幸



意見交換会からスタート

ここでは、現在の協議会活動を支えているのも多くが高齢化を嘆くこともあります。しかし、まだまだ地域に貢献したいというベテランの力は欠かせません。若者の力は大きいけれどまだまだ仕事や育てに忙しく、平日などの活動を支えているのはまさに、この層なのです。

それでも、まだまだ地域に貢献したいというベテランの力は欠かせません。若者の力は大きいけれどまだまだ仕事や育てに忙しく、平日などの活動を支えているのはまさに、この層なのです。

高齢化を嘆くこともあります。しかし、まだまだ地域に貢献したいというベテランの力は欠かせません。若者の力は大きいけれどまだまだ仕事や育てに忙しく、平日などの活動を支えているのはまさに、この層なのです。



要望書

三和地域においては、過疎化・少子化の進行により、平成27年4月、川合小学校と細見小学校が統合しました。また、菟原小学校でも、将来的に複式学級が解消される目途は立たず、細見小学校においても、平成31年度より複式学級の設置が見込まれるまで児童数が減少しています。

このような将来を見据え、三和地域の各小中学校PTAでは、子どもたちにとって、また三和地域の将来にとって「より良い教育環境とは何か」について、昨年度から協議検討を重ねてきました。

また、三和地域協議会では地域ぐるみで学校統合問題を考えるため、各地区自治会長会代表、各小中学校評議員、PTA代表等により、「学校統合問題検討部会」を本年5月に立ち上げました。

検討部会では、学校の状況や小中一貫校の制度及び現状について研究するとともに、三和地域の将来と学校のあり方について議論を深めてきました。本年7月と11月には、市教育委員会と共に住民説明会を開催し、地域住民の皆さんへの説明と議論を進めてきましたところです。

これらの取り組みを踏まえ、それぞれのPTAにおいては本年8月から10月にかけて臨時総会を開催し、「三和地域における小中一貫校の導入」について議決し、合意を得ることとなりました。また、三和町自治会長会及び三和地域協議会においても、各PTAの意思を尊重し、同様の合意を得たところです。

つきましては、三和地域の総意として学校統合について、下記のとおり要望します。

記

- 1 三和地域の小学校2校と中学校を統合し、三和中学校の施設を有効活用した「施設一体型小中一貫校」を平成31年4月に開校されたい。
- 2 施設整備については、小中一貫教育の学びを支える施設環境を考慮したものにされたい。
- 3 スクールバスの運行により、三和地域全体の児童・生徒の通学方法と安全確保に配慮されたい。
- 4 小中一貫校の開校に当たっては、地元住民、保護者、学校関係者等で構成する組織を設置し、円滑な統合・開校に向けた準備に努められたい。
- 5 閉校後の跡地については、三和地域全体の振興の視点も踏まえ、地元自治会等と十分協議し、活用を図られたい。

平成28年12月21日

福知山市長様
福知山市教育委員会 教育長様

菅原地区自治会会长	代表	細見 久雄
菅原中自治会会长	代表	西岡 隆
細見地区自治会会长	代表	
芦洲自治会会长	代表	
川合地区自治会会长会	代表	
坪井自治会会长	代表	
菟原小学校PTA	会長	樋山 明平
細見小学校PTAこだま会	会長	口崎 浩寿
三和中学校PTA	会長	大橋 浩則
三和地域協議会	会長	

夕焼けの横断幕とテントが目印

夕焼け市 はじめました



夕焼けの横断幕とテントが目印です。販売以外に、初日11月23日は三和町産大豆で作った豆腐の試食販売、同日は三和町野菜や加工品の販売があります。丹波みわ活性化協議会が、昨年11月23日から「夕焼け×マーケット」と称した市をスタートされました。



お客様でぎわう店内

編集後記

今年は「酉年」ということでも、酉は果実が成熟した状態のことを目指すそうです。鶏とどういったのかな?と思つてさらに調べると、十二支の動物の中には、覚えやすくするために漢字に充てられたものなのですね。普及するためには、みちな考え方方は、今にも通じるものがあります。このことは、三和地域協議会の存在をアピールするイメージキャラクターを付けられるようないい印象に残るキャラクターがいればいいのかな:(思いつかなかなけど:)そんな事を考える、酉年始まりです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

小中一貫校を平成31年度から

—福知山市長・教育長に要望書提出—

市長へ要望書提出



福知山市教育委員会が進める市内の中学校再編計画を受け、自治会長会代表、各PTA代表、学識経験者が構成する「学校統合問題検討部会」を昨年5月に立ち上げ、三和地域の将来の学校のありかたについて議論を積み重ねてきました。各PTAでは平成27年度から検討が始まり、それぞ

れ真剣な議論の結果、昨年8月から10月にかけて揃って小中一貫校の導入について合意されました。自治会長会への報告と議論を進めるとともに、7月と11月に全住民を対象とした説明会を開催し、地域の皆さんとの意見集約を図ってきました。これまでの議論と経過を踏まえ、学校統合問題検討部会で作成した福知山市と教育委員会に対する「要望書」(案)を各団体で検討し、12月12日に開催した同部会において最終決定することができました。

「要望書」は12月21日、福知山市役所において、樋山正明部会長(三和町自治会長会長)、熊谷忠之副会長(細見小学校PTA)ほか、各PTA代表、自治会代表、三和地域協議会会

長など10人が出席し、大橋一夫福知山市長と端野学教育長にそれぞれ提出しました。市長、教育長からは、「地域の皆さんの真摯な取り組みに敬意を表し、責任を持って要望に添えるよう取り組みます」との返答をいただきました。今後、福知山市の新年度予算に必要な事業費が盛り込まれ、平成31年度の開校に向け、それを先生がまとめる形で取り組みます」との返答をいただきました。

左記の通り書」の概要は「住み続けられるみわ」のために活動を進めていきます。(今回提出した「要望書」の概要は左記の通り)



教育長へ要望書提出

三和地域協議会は、これからまちづくりにご参加いただきたいと考えています。三和地域協議会は、地域の皆さんとともに、住み続けられるみわ」のために活動を進めていきます。(今回提出した「要望書」の概要は左記の通り)

公立大学では、地域に出て行く現地学習を大学の大きな特徴にします。三和地域協議会もそれに応え、積極的に授業や実習を受け入れて協力するとともに、若い学生が定期的に三和を訪れるなどを地域の活力に結びつけていきたいと考えています。

公立大学杉岡ゼミ7人が現地学習 —地域協議会の活動としくみを学ぶ—

真剣に話を聞く学生たち



昨年11月25日、福知山公立大学准教授、2回生7人の現地学習の整備、教育体制、通学方式など、地域住民代表による検討組織も立ち上がる予定です。菟原小学校と細見小学校の跡地利用についても、行政と住民が一体となって検討を進めていかなくてはなりません。

三和地域協議会では、地域の現状や協議会のしくみ・活動を素材に学習されました。

はじめに、協議会の岡部成幸事務局長から、三和地域協議会の設立経過や活動、行政との協働などについて報告し、学生からの質問を受けて、それを先生がまとめる形式で、3時間にわたって熱心な議論が交わされました。

公立大学では、地域に出て行く現地学習を大学の大きな特徴にします。三和地域協議会もそれに応え、今回の授業はその一環で実施されたものです。三和地域協議会もそれに応え、積極的に授業や実習を受け入れて協力するとともに、若い学生が定期的に三和を訪れるなどを地域の活力に結びつけていきたいと考えています。

皆さんの近くに学生たちが伺い、地域での生活や文化を学ぶ機会が多くなると思います。温かく迎えてあげたいものですね。